

## はじめに

私が「メンテナンスや SPT (Supportive Periodontal Therapy) を25分で終わらせる」と考えるようになったきっかけは、とあるA先生から「歯科衛生士が行うリコールを、もっと短時間でできないものか？」という問いかけでした。

A先生には、予防に特化した歯科医院を新たに開業する構想があり、そのミーティング中に、そのような問いかけを受けました。当時(2016年ごろ)は、診療報酬改定で歯周病安定期治療(SPT II)が導入され、多くの歯科医院が「かかりつけ歯科医院としての役割」や「歯周病安定期治療とは何か」を模索していました。また、歯周組織検査・口腔内写真撮影・染め出しをしてTBI (Tooth Brushing Instruction)・PTC (Professional Tooth Cleaning)を行い、歯科医師の診察後に口腔内状況の説明をする、という一連の内容を終えるには、50分近くかかります。そのため、SPT IIの患者さんは1時間枠で予約をとるケースが多かったと思います。私自身も、臨床の場でSPT IIの内容を忠実に実践していたので、1時間枠での予約は普通だと考えていました。

私は、この50分近くかかる業務を短くするために、無駄を省いて効率よく作業すればよいと考え、医院の機器の充実を提案しました。歯周組織検査入力はアナログ(手書き)からデジタル(iPad)にすることで、5分の短縮。歯肉縁上のバイオフィルム除去にエアフロー(パウダー)を使用することで5分短縮し、これで合計10分の短くできます。一連の流れを40分で終わらせ、45分の予約枠にできるとA先生に伝えました。しかしA先生は、「45分じゃ、いと変わらない。もっと短時間でできる方法を考えてほしい」と厳しい口調でおっしゃいました。

歯科衛生士である私としては、「それ以上の時間短縮は、患者さんから手を抜いていると思われてクレームになる」、「45分より短い時間で終わらせるなんて、何かを諦めないといけないはずがない」と思っていました。

しかし、私は会社の経営者でもあります。その視点から考えると、予約の60分枠と45分枠に、大きな差がないことがわかりました。1日の診療時間が7時間とすると、1ユニットで診療できる患者数は、60分枠では7人、45分枠では9人で、2人しか増やすことができません。もし、30分枠にできたら、当然60分枠の倍である14人になります。

そこから私は、「30分枠を実現できるのか?」、「30分で終わらせるためにはどうすればいいのか?」を考えるようになりました。30分枠では、午前9時に1人目の患者さんを通したら、2人目の患者さんは9時半に通します。つまり、患者さんに充てられるのは25分の内容であり、残り5分で片づけと次の予約の準備をしなければなりません。歯科衛生士として、25分と5分で“できること”と“やらなければならないこと”、そのために必要なスキルと機器は何かをさらに考えました。

そして2018年に、「25分メンテナンス & SPT」の原型ができ上がりました。私は2018年10月にワールドデンタルショーでその内容を講演の一部で紹介し、DHstyle2019年1月号の特集で「質の高い“25分”メンテナンス & SPT」を執筆し、その後、連載をスタートさせる機会を得ました。

「予約を25分にして、いままでの倍の患者さんを診るのは、歯科衛生士の負担が増えるだけでは?」と思うかもしれません。しかし、そうではありません。確かに、診る患者数は増えますが、いままで50分間集中しなければならなかったところが、“25分の集中”に短縮され、施術の質が上がるのです。また、これは私個人の感覚ですが、1日の疲労度は変わりませんが、達成感を伴う疲労へと変わりました。

歯科衛生士のミッションは、患者の口腔内環境を守ることです。セルフケアの大切さを伝え、プロフェッショナルケアで患者をサポートしていきます。そのためには、1人でも多くの患者さんをケアできるスキルと、医院経営の要となるマネジメントスキル、そして25分で行うメンテナンス & SPTの先にある付加価値を創造していくことが必要です。本書は、それらを身につけて実践へと導く内容が詰まっています。

本書を手にとっていただいた歯科衛生士のみなさんには、新たな価値の創造をいち早く理解し、未来型の予防歯科医療を提供できる人財になってほしいと願っています。

今回、デンタルダイヤモンド社編集長の木下裕介氏の多大なるお力添えで、本書を発刊することができました。あらゆる歯科医院の視察や研修で多くの歯科衛生士の皆様を見てきて強く感じるのは、ご自身の歯科衛生士としてのレベルや施術スキルを客観的に評価できている方は意外と少ないということです。また、「卒後研修」の場が圧倒的に少なく、個々人が自身の評価を把握できる機会も少ないと感じています。

本書は卒後研修の参考書として、また効率的に結果を出せる実践書として、ご活用いただければ幸いです。

すてきな私たちでありますように、願いを込めて

歯科衛生士 長岐祐子

## 本書の読み進め方

本書の各章は、下記を裏テーマに構成しています。

1章「現状を把握し、これからのことを考える」

2章「必要なスキルを知り、身につける」

3章「これから必要になるスキルと考え方」

4章「“口腔ケアの大切さ”を多角的な視点から見る」

読者の皆様が、興味ある、大切だと思う章から、読み進めてください。